

# 多文化共生事業事例集

年度  
30

団体名	愛知県	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
事業名	多文化共生の地域づくり推進事業		
		事業費総額 1,600千円	意識啓発・地域づくり

事業名	多文化共生の地域づくり推進事業
-----	-----------------

特徴	地域で外国人住民と共生する上で参考となるガイドブック等を作成するとともに、外国人住民と日本人住民の架け橋となる「地域多文化コーディネーター」を育成した。
----	--

事業のポイント	事業の概要
<p>◇外国人が集住している地域で現地調査を行い、地域で発生している外国人住民とのトラブルや解決方法、外国人住民が地域活動の担い手として活躍している事例等をまとめたガイドブックと、外国人住民に対して自治会活動や地域でのルール等を伝えるための多言語リーフレットを作成した。</p> <p>◇外国人住民や日本人住民から相談に乗るなどし、双方の架け橋となる「地域多文化コーディネーター」の育成研修を行った。</p>	<p>(具体的な成果)</p> <p>1. 現地調査及びガイドブック・リーフレットの作成</p> <p>(1) 調査市町村及び調査場所 岡崎市、豊田市、西尾市の外国人集住団地、小学校、自治会・町内会、企業など</p> <p>(2) ガイドブックの内容 名称「日本人と外国人が地域で共に暮らすためのガイドブック」 ・外国人の方が活躍する先進地域の活動紹介 ・自治会（町内会）の仕組み、外国人が自治会に参加するポイント ・外国人の方々にわかるように配慮した「やさしい日本語」での情報提供 など</p> <p>(3) リーフレットの内容 名称「日本で暮らそう～快適な地域生活のために～」 ・自治会（町内会）の加入方法・活動内容 ・公営住宅（県営住宅・市営住宅）で暮らす上でのルール ・外国人県民の方が相談できる窓口の紹介 など</p> <p>※リーフレットは、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語に翻訳し、日本語を併記して作成。 なお、ガイドブックとリーフレットは、データで作成し、Webに掲載して周知した。</p> <p>2. 地域多文化コーディネーターの育成</p> <p>(1) 開催場所及び実施回数 岡崎市、豊田市、西尾市 各3回</p> <p>(2) 対象者 自治会及び町内会役員、NPO 職員、日本語教室関係者など地域活動に関わる方</p> <p>(3) 内容 ・地域に住む外国人の状況や、先進地域の取組事例を学ぶ講座 ・地域で共に暮らすために必要なことなどを考えるワークショップ</p> <p>(4) 実績 参加者数 100名 研修参加者のうち、要件を満たす方には、「あいち地域多文化コーディネーター認定証」を発行した。認定証交付者数 76名</p>
事業の背景・目的	
<p>◇愛知県では現在 26 万人を超える外国人県民が暮らしており、今後も地域で暮らす外国人の増加が見込まれる。</p> <p>◇外国人が集住する地域では、自治会活動やゴミ出し、駐輪場の利用など、生活上のルールを伝えることに苦慮し、様々な問題が発生しているが、こうしたトラブルは丁寧な説明やチラシの多言語化などで避けられる場合も多いと考えられる。</p> <p>◇外国人が地域で生活するにあたり、日常生活等の理解促進と、地域住民が外国人住民の受け入れを円滑に進めるために参考となる情報の提供や地域で調整役となる人材の育成が必要である。</p>	



「地域多文化コーディネーター」育成研修の様子



「日本人と外国人が地域で共に暮らすためのガイドブック」  
A4版 全20ページ

## 事業実施における工夫点・事業の成果等

◇ガイドブック等の作成にあたり、3地区の自治会、小学校、地域のキーパーソン等へのインタビューや、好事例についての調査を行い、報告書にまとめた。各地域でトラブル等に向き合い、工夫しながら外国人住民との共生を進めている実情がよくわかった。

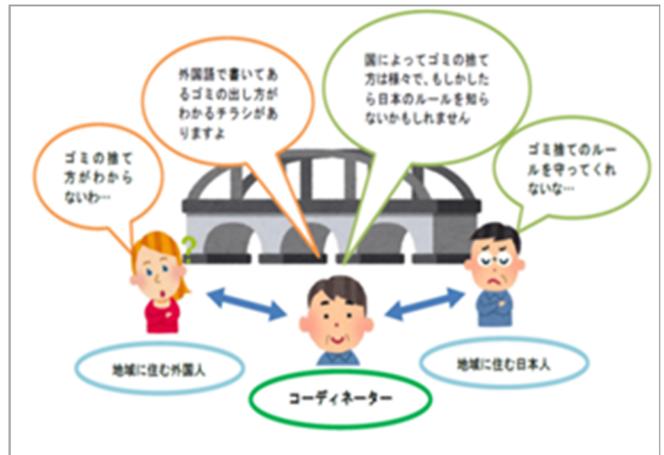
◇ガイドブックには、日本人と外国人との共生に関して地域で発生しやすい問題と解決方法、外国人が活躍する地域の紹介なども行いながら、多文化共生に精通していない地域の方でもわかりやすく、参考になるように、表現等に配慮した。

◇多言語で作成したリーフレットは、転入後に必要な手続きや、自治会（町内会）の加入、ごみ出しのルール等について、簡単にわかりやすく説明する資料となるようにした。（サイズ：A3両面・二つ折り）

◇地域多文化共生コーディネーター育成研修では、講義（事例紹介）とワークを活用して下記の内容で行った。

- 【第1回】立場を変えて物事を見ることを学ぶ
- 【第2回】先進事例からコーディネーターの役割を知り、地域で一緒に暮らすための課題を考える
- 【第3回】地域多文化コーディネーターとして何ができるかを考える

◇ガイドブックの作成や研修実施の際には、複数のタブマネに関わっていただき、何度も打合せを行いながら進めた。コーディネーター育成研修は初めての試みで、模索しながら進めたので、1回実施してみて、反省会をして、次回改善することを繰り返し行った。



「地域多文化コーディネーター」イメージ図



地域多文化コーディネーター育成研修（第3回）  
～ビジョンの発表～

◇あいち多文化コーディネーターとして認定された者のうち、県への登録を希望し、かつ情報を公表することに同意した方について、県のWEBページにおいて名簿を掲載している。コーディネーターは、県・市町村・地域等から依頼を受けて活動を行っていただく。

## 今後の課題・将来に向けての展望等

◇ガイドブックやリーフレットを作成する上で現地調査を行ったが、集住している地域でも依然として、外国人住民と日本人住民とのトラブルがあり、多文化共生が簡単ではないことが伺えた。その一方で、日本人住民と協力しつつ地域で活躍する外国人住民もいるため、今回作成したガイドブックやリーフレットを参考に、他の地域でも多文化共生が進むきっかけになればと考える。そのため、今後はガイドブック及びリーフレットの普及に取り組んでいく。

◇今回育成した地域多文化コーディネーターに対して、地域において外国人住民と日本人住民の架け橋として活躍していただけるよう、今後は知識や技術向上のためのフォローアップや多文化共生関係のイベントへの参加促進を行い、共に協力しながら地域での多文化共生推進を行っていく。

## 事業担当者のふりかえり

- ⇒ コーディネーターを育成した後、どのように活躍してもらうかが当初からの課題であり、そこを念頭に事業を進めていくことを心がけた。育成した人材が活躍できる場や、研修会でできたつながりを継続する場を考え、次年度以降に引き継いでいくことが重要である。